

【道の駅「クレール平田」（岐阜県）】

システム概要

- ①生産者がパソコン及びFAXを利用して直売所に出荷予約を行う。
- ②予約された農産物のバーコードは自宅のFAX等に自動発給されるため、商品に貼付した状態で直売所に農産物を搬入、店頭に並べる。
- ③直売所では販売した商品がレジを通過する毎にデータがPOSレジシステムに蓄積され、データベースとして活用。
- ④生産者は1時間毎に更新される売上データをもとに携帯電話で売上案内サービスを受ける。
- ⑤直売所店内に設置されている1台のライブカメラで直売所の様子をインターネットでリアルタイム視聴することが可能であり、店内の様子を把握。
- ⑥消費者はライブカメラにより品揃えの確認やクレール平田のHPに公開された情報により、その日に直売所へ出荷された単価、数量など、店頭情報や売れ筋情報を確認可能。



直売所の天井に取り付けられているライブカメラ



商品に添付したバーコードラベル

導入経緯・背景

- 平成12年1月にオープンした道の駅「クレール平田」は、販売の効率化などを目的としたPOSレジシステムを導入していたが、活用はレジ入力作業の省力化、支払い集計等にとどまっていた。
- 平成14年7月に対面による「顔の見える農産物販売」の必要性から対処方法を検討し、「農産物直売所IT活用型支援システム」を導入した。

導入者コメント（効果・課題等）

- 導入当初は、売上高や生産者の会員数も増加していたものの、近年では売上高は横ばい、会員数は高齢者のリタイヤ等により減少。
- トレーサビリティやレシピなどの付加情報を発信したいが、システムに機能が備わっていない。そのため、導入資金の課題がある。（現在は手書きレシピで対応している生産者もいる。）
- 高齢者の離農と農地の管理、新たな会員（担い手）の不足、高齢会員のPC等操作などが課題。